会　告

国際ジオシンセティックス学会日本支部
2007年通常総会　議事録

日時：平成19年2月6日　16：00～17：00
場所：東海大学交友会館内 朝日·東海の間

1．出席者数の確認

【個人会員】279 名中
出席者：25 名＋委任状 128 名＝ 153 名
【特別会員】25 社中
出席者：9 社
委任状：7 社
【合　　計】304 名中
出席者 169 名

過半数で定足数を満足し総会は成立した。
三木支部長の挨拶に引き続き配付資料を用いて説明が行なわれた。
なお配付資料の一部については口頭による修正が行なわれた。

2．2006年事業報告と2007年事業計画（資料－1）

1）支部活動報告
会員数の報告と支部活動全体の報告が桑野副支部長よりあった。
① 理事会への出席
② 会員名簿の提出などの IGS 本部への対応
③ 横浜会議の開催
④ 事務局の移転（東京大学内から埼玉大学内へ）

2）各委員会報告と活動計画（※報告要旨のみ記述／詳細は議事資料参照）
①編集委員会（木幡委員長）
2007 年 3 月号は ICG 横浜の特集号とし、実行委員への配布も考えて増刷を行う
②行事委員会（峯岸委員長）
シンポジウムは八戸工大で開催。熊谷先生にご協力いただき無料で場所を確保できた。
2007 年度は 12 月 6，7 日：東京で開催の予定とする。
③電子情報化委員会（宮田委員長）
委員の河村先生らにご協力いただだき、HP の更新作業をおこなってきた。
2007 年度は電子情報化のスピード UP をはかる目的で予算枠を大きくした。
④学生教育委員会（今野委員長）

現場見学会を企画したが土・日曜日や学校授業の日程との兼ね合いで実施できなかった。
2007年はトレーニングコースの他、各種の研究機関も対象に入れ現場見学会を企画する。

⑤新技術委員会（中村委員長）
処分場／軽量土の2部会で運営した。話題提供と意見交換が中心となった。
2007年は3部会（企画，新技術、実例）を開設し運営のするほか、公共事業が減少し交流の場が少なくなったので会員の情報交換を含めた交流の場を提供するような運営を考える。

⑥ジオメンブレン技術委員会（島岡委員長／代理：平井事務局）
実績のデータ収集とサンプリング調査を行い、を作成中。
2007年も耐久性評価マニュアルの作成を継続する。

⑦ジオテキスタイル技術委員会（古関委員長／代理：篠田事務局）
第3ステージとして限界状態設計の各種特性値の整理や海外基準の動向と調査を行なった。
2007年は第4ステージとしてLCCの算定法など考慮した委員会を発足させる予定。

⑧ジオシンセティックス試験法委員会（木幡委員長）
試験法に係わる問題点の抽出などを行なった。
2007年はジオシンセティックス関連の基準で基準(案)となりながらも施行されていない4つの基準について地盤工学会と連携しながら施行・出版に結び付ける。

⑨コーポレートメンバー委員会（桝尾委員長）
横浜会議の支援を中心にして活動した。IGS本部の特別会員名簿のメンテナンスを行なった。
前田建設工業様が特別会員をはなれ個人会員として協力をいただく。
2007年は特別会員にとって魅力ある学会活動とするための方策として棚上げになっているロゴマークの使用等について進めていく。

⑩表彰委員会（落合委員長／代理：桑野副支部長）
表彰規定を改定し選考過程の透明性・公平性をより向上させるようにした。
2006年度IGS日本支部各賞の選考結果報告。
IGS学生賞選考結果報告(2007年度の募集は予定されていない)。
2007年度IGS日本支部賞は応募締め切りを従来の9月末から5月末に変更する。

【新設の委員会について：三木支部長】

「技術普及委員会」と技術委員会内に「災害復旧技術委員会」を新設する。

1）技術普及委員会は地盤工学会と協調して技術者向けのセミナーを開催し技術普及につとめる
2）災害普及委員会は”強化復旧“をポイントにした災害復旧対策工についての技術の提案や情報交換の場とする

★2006年事業報告／2007年事業計画について，すべて了承された

3．財務委員会報告：舘山委員長（資料－2）

1）一般会計
「収入の部」（資料2－1）

・横浜会議のために特別会計に積み立てた資金 1,800 万円が横浜会議の決算をもって一般会計に全額返納となる。

「支出の部」（資料２－２）

・事務局を東大から埼玉大学に移転した。場所の確保や事務機器等使用への便宜に対して初年度に限り埼玉大学に寄付金を 50 万円支払った。

・IGS 本部への会費支出を除き、委員会経費、出版経費、事務局経費など節約され、計画に対して 291 万円の節約となった。

２）特別会計の予算と決算（資料２－３／資料２－６）

・特別会計は 8thICG 横浜開催にむけて一般会計とは別にしたもの

・8thICG 横浜は企業／財団の協賛を得ながら参加者もあつまり終了した。特別会計の支出も各種部会、事務局で華美な会議にならないよう企画／運営し節約につとめた結果、収支的に赤字にならなかった。

・本総会後の懇親会は 8thICG 横浜の実行委員会の慰労会も兼ねており、特別会計の会計決算は本総会終了後とする。一般会計からの繰入れ金の戻しは３月末に行なう。

・特別会計については公認会計士に会計監査を委託する予定。

３）2007 年度会計予算（案）（資料２－３／資料２－４）

★特別会計からの戻し金による繰越し金を考慮すると予算上の問題は顕在しないが単年度ベースでみると収入 1,200 万円に対して支出 1,350 万円であり構造的な赤字は 150 万円／年となっている。繰越し金は IGS 日本支部の発展に寄与できる使い方を考えて当てることが必要である。

★以上の財務報告について，すべて了承された。

４．会計監査報告：伊藤幹事長（資料－３）

★監査報告は認められた

５．役員の選出と委員会（資料－４／資料－５）

・幹事長：伊藤幹事長から平井副幹事長へ交代

・副幹事長／技術普及委員会副委員長：横田氏　（新任：前田工繊）

・学生教育委員長：今野幹事（退任）から鎌尾氏（新任：日本大学）へ交代

・新技術委員会副委員長：阿部幹事（退任）から北本氏（新任：鹿島建設）へ交代

・財務委員会委員長：舘山幹事（退任）から伊藤幹事長へ交代

・新技術委員会副委員長：柴田氏（新任：芦森工業）

・災害復旧委員会副委員長：宮武氏（新任：土木研究所）

・幹事：新谷幹事（退任）から間氏（新任：三菱化学産資）へ交代

・コーポレート委員会副委員長：清川幹事（前田建設工業 飯島副委員長退任の為）

・電子情報化委員会委員長：宮田副幹事長から小島氏（新任：鉄道総研）へ交代

★役員と委員会の構成は認められた

5．8thICG横浜報告：清川事務局長

清川事務局長より横浜会議が、参加者・論文とも満足できる数字となり盛会に終了したことの報告と各部会のほか、多方面からの協力に対しての御礼の挨拶があった。

6．IGS日本支部 支部規定の改正：伊藤幹事長

1）事務局の場所についての記述を削除すること

1．名称

~~1.1 支部の事務局は社団法人地盤工学会内におく。~~

2）付則.1 の削除／改定

本規定は平成 ~~16~~19 年通常総会以降・・・

3）規約改正の日付の追記

2007 年 2 月 6 日改正

★支部規定の改定は認められた

7．閉会の挨拶：三木支部長

新しい委員会を設立させた。今後も IGS 日本支部の技術提案力をみがいて行ける学会活動とする。

という内容の挨拶があった。

以上：議事録作成 桝尾

＜2006 年度事業報告及び 2007 年度事業計画＞

1．現況会員数（2006 年 12 月 31 日現在）

正会員　279 名、特別会員　　25 社、学生会員　　26 名

（2005 年末の会員数：　正会員　270 名、特別会員　24 社、学生会員　29 名）

2．日本支部の主な活動

1．IGS 理事会への出席（敬称略）

・2006.6.25.　カーディフ（イギリス）出席者：龍岡副会長、嘉門理事

・2006.9.18.　横浜　(Outgoing Council)出席者：龍岡副会長、嘉門理事

・2006.9.23.　横浜（New Council）出席者：龍岡会長、嘉門理事、大谷理事

2．会員名簿の提出（随時）、本部名簿の国内送付（1 月）

3．2006 年第 8 回 IGS 国際会議 in 横浜の開催（9 月 18～22 日）

4．事務局担当幹事の交代及び、東京大学内から埼玉大学内への事務局移転（6 月）

3．刊行物の発行事業

1．国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿（5 月）

2．ジオシンセティックス技術情報（3 月，7 月，11 月号）

3．Proceedings of the 8th International Conference on Geosynthetics（9 月）

4．ジオシンセティックス論文集第 21 巻（12 月）

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2006 年活動報告

（1）編集委員会の活動概要

1) 第 1 回編集委員会（日時：平成 18 年 3 月 3 日，場所：三井化学産資　7F 会議室）
- '06.3 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '06.7 月号の目次案検討，特集記事「軽量土」の構成の検討
- 「ジオシンセティックス用語集」の構成内容と作業工程の検討

2) 第 2 回編集委員会（日時：平成 18 年 6 月 29 日，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- 2006 年度の編集体制の確認
- '06.7 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '06.11 月号の目次案の検討
- '07. 3 月号を国際ジオシンセティックス会議横浜大会の会議特集号とすることとし，横浜会議の開催前に，キーノートレクチャー，セッション，行事等の取りまとめをお願いする執筆者を決定し，執筆依頼を出すこととした.

3) 臨時　編集委員会（日時：平成 18 年 9 月 21 日，場所：パシフィコ横浜 事務局横休憩コーナー）
- 平成 17 年度技術賞，技術奨励賞への推薦候補となる技術報文の選考
- '06.11 月号の進捗状況の確認

4) 第 3 回編集委員会（日時：平成 18 年 10 月 27 日，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '07 年度の編集 WG 体制の決定
- '06.11 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '07. 3 月号の目次案の検討と「横浜会議特集号」の執筆者の確認
- 「ジオシンセティックス用語集」の構成内容の詳細を検討，作業工程の再検討

（2）2006 年委員会設営費報告

内　　訳	予算（円）	実績（円）	備　　考
①　委員会経費			
・編集委員会	200,000	200,000	小計
		67,000	第 1 回編集委員会交通費
		68,000	第 2 回編集委員会交通費
		65,000	第 3 回編集委員会交通費
②　講習会・出版等支出			
・用語集出版費	200,000	0	小計
合　　計	400,000	200,000	

用語集については，平成 18 年度に編集作業を終了し出版する予定であったが，ISO/TC221(ジオシンセティックス)において，ジオシンセティックスの「用語と定義」に関する規格案が審議中であることから，内容を再検討することとなり，出版を平成 19 年度に実施することとしたため，用語集出版費は使用されなかった。

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2007 年活動計画

（1）活動計画

＜全体の活動内容＞

定期発刊を心掛けるとともに，「技術報文」の投稿については，編集委員による情報収集のほか，シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会をも範疇に入れ，JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。企画記事としては，昨年，9 月に開催された「国際ジオシンセティックス会議横浜大会」の特集号として 3 月号を企画し，会議運営をお手伝いして頂いた委員の方々に配布する予定である。そのため，3 月号は通常の印刷部数より多めに印刷することを計画している。また，我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから，ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していく予定である。さらに，これまで同様，「修士，博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。一方，特別企画として予定している「ジオシンセティックス関連の用語集」については，ISO で審議中の「ジオシンセティックスに関連する用語と定義」規格案と整合性を取りながら，国内で使用されている用語も加えて編集する予定である。

＜具体的な活動内容＞

1．ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティック技術情報は，従来通り年 3 回の発行とする。

（2007 年 3 月号，2007 年 7 月号，2007 年 11 月号）

2．ジオシンセティックス用語集の出版

3．編集委員会

編集委員会においては，ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として，目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに，編集に際しての問題点の解決を行う。また，継続的な審議事項として，編集方針や内容分類の整理，技術情報の目次の HP への掲載，テーマ特集号の設定，新企画の検討など，読者のニーズに合うように check and review を積極的に行う。

開催予定：4 回程度（3 月，7 月，9 月，11 月を予定）

4．編集 WG

編集 WG においては，幹事会および編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として，原稿の内容確認などを行う。なお，今年度の編集 WG 分担は以下に示す通りである。また，編集 WG は，必要に応じて開催するものとし，基本的にはメールで作業を行う。

07 年 3 月号：主査　西村幹事，副査：平川委員，木幡委員長（横浜会議の特集号）
7 月号：主査　谷口委員，副査：山本委員，松本委員
11 月号：主査　原田委員，副査：荻迫委員，小浪委員

（2）2007 年設営費計画

平成 19 年度は，例年通りの交通費と昨年度作業を行った特別企画の用語集出版費（20 万円）を加えた以下の予算案としたい。

内　訳	19 年度予算案（円）	備　考
①　委員会経費		
・編集委員会	200,000	委員会交通費
	173,000	（73,000×2 回+14,000×1 回+13,000×1 回）
・編集 WG 会議	27,000	WG 会議交通費
		（9000×3 回）
②　講習会・出版等支出	200,000	②　講習会・出版等支出
・用語集出版費		・用語集出版費
合　計	400,000	

行事委員会 2006 年活動報告

（1）2006 年活動内容

2006 年は、ジオシンセティックスシンポジウム企画、準備、実行に伴う活動を中心に行った。21 回目となる 2006 年度シンポジウムは、八戸工業大学 AV ホールにて 12 月 7、8 日の両日にわたり開催された。また、初の試みとして 2 日目の昼休みを利用して補強盛土工法の現場見学会も行われた。時系列ごとの活動内容は以下の通りである。

2 月 6 日	シンポジウム論文募集会告（技術情報・HP）原稿提出
4 月 3 日	地盤工学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼
4 月 7 日	シンポジウム論文募集案内（土と基礎 6 月号会告）原稿提出
5 月 17 日	論文集電子化説明会参加（JST）
6 月 30 日	（社）繊維学会協賛依頼提出（前田工繊・笠原氏へ）
7 月 12-14 日	第 40 回地盤工学研究発表会にて広報活動
7 月 28 日	第 1 回行事委員会開催 シンポジウム関連事項等審議（論文応募状況の確認、概要審査、プログラム概要決定・会告原稿作成、座長・副座長候補者の選定、査読要領・シンポジウム実施要領の検討、懇親会計画）、JCIGS 論文賞および論文奨励賞候補者の選出
8 月 25 日	本論文提出締切
8 月 28 日	JCIGS 論文賞および論文奨励賞候補者の推薦書提出
9 月 5 日	本論文査読委員依頼状発送
9 月 8 日	地盤工学会へプログラム原稿提出（土と基礎 11 月号会告、加藤事務局長へ）
9 月 9 日	座長・副座長依頼
9 月 11 日	繊維学会へシンポジウムプログラム原稿提出（繊維学会誌会告、前田工繊・笠原氏へ）
9 月 20-22 日	土木学会全国大会にて広報活動
9 月 29 日	査読結果報告締切
10 月 10 日	第 2 回行事委員会開催 シンポジウム関連事項打合せ（招待者、論文査読結果取りまとめ、プログラム詳細編成、発表方法、役割分担、論文集編集）
10 月 16 日	査読結果通知発送
11 月中旬	論文集原稿入稿
12 月 7－8 日	第 21 回ジオシンセティックスシンポジウム開催（八戸工業大学 AV ホール） 参加者 117 名（2005 年 121 名）、一般発表（53 編）、特別講演（三木博史 IGS 日本支部長）、JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会 102 名（2004 年 59 名）

（2）2006 年委員会設営費報告

2006 年度委員会設営費収支実績

内　　訳	予　　算	実　　績	備　　考
委員会交通費	90,000	11,000	交通費(7/28,10/10委員会)
通信費・消耗品等	10,000	-	資料郵送代
第20回シンポジウム	200,000	-69,914	(69,914円プラス)
〈収入〉	600,000	672,500	
	(500,000)	(421,000)	シンポジウム参加費
	(100,000)	(204,000)	懇親会参加費
		(4,000)	論文集購入（現金１名）
		(10,000)	請求書払い（会員･非会員各1名）
		(33,500)	バス代67名分
〈支出〉	800,000	602,586	
	(100,000)	()	会場費・設営費
	(400,000)	(419,160)	論文集印刷費(250部)
	(50,000)	(45,000)	特別講演謝礼・交通費
	(100,000)	(19,115)	通信費・交通費ほか
	(150,000)	(118,996)	懇親会費
		(315)	送金費

シンポジウム参加者の内訳

第21回ジオシンセティックスシンポジウム収支

	シンポ参加人数	収入額		懇親会参加人数	収入額
正会員	59	236,000	参加者	68	204,000
非会員	17	102,000			
招待	27	0	学生	8	0
優待	18	72,000	招待	26	0
学生	11	11,000			
小計	132	421,000	小計	102	204,000
				参加収入総計	625,000
			論文集購入	1	4,000 現金
			計		629,000

行事委員会 2007 年活動計画

（1）2007 年活動予定

2007 年度は以下の日程で活動を行う予定である。

2 月	シンポジウム論文募集会告（技術情報）原稿提出 地盤工学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼
4 月上旬	シンポジウム論文募集会告（土と基礎 6 月号会告）原稿提出 繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム協賛依頼
6～7 月	各研究機関への論文投稿依頼
7 月 4-6 日	地盤工学研究発表会（名古屋）における広報活動
7 月末	シンポジウム投稿論文題目と概要の申込み締切
8 月上旬	第 1 回行事委員会：シンポジウム関連事項打合わせ（論文応募状況の確認、概要審査、プログラム概要決定・会告原稿作成、論文審査員候補者選定、査読要領・シンポジウム実施要領の検討、特別講演講師候補の検討、懇親会計画）、JCIGS 論文賞・論文奨励賞候補者の選出
9 月上旬	本論文提出締切、査読依頼 シンポジウム開催案内（土と基礎 11 月号会告）原稿提出 ジオシンセティックスシンポジウム査読依頼
9 月 12-14 日	土木学会全国大会（広島）における開催案内配布
10 月下旬	査読結果報告締切 第 2 回行事委員会：シンポジウム関連事項打合わせ（招待者、プログラム詳細、論文査読結果取りまとめ、役割分担、論文集編集）、査読結果通知
11 月上旬	招待状発送（支部顧問、特別会員）
11 月中旬	修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
12 月 6,7 日	第 22 回ジオシンセティックスシンポジウム（予定会場：地盤工学会館）

（2）2007 年設営費計画

2007 年度委員会設営費予算

内　訳	予　算	備　考
行事委員会	100,000	
	(80,000)	委員会交通費・事務局旅費
	(20,000)	通信費・消耗品等
第22回シンポジウム	0	地盤工学会館
〈収入〉	800,000	
	(600,000)	シンポジウム参加費
	(200,000)	懇親会参加費
〈支出〉	800,000	
	(150,000)	会場費・設営費
	(400,000)	論文集印刷費250
	(50,000)	特別講演謝礼・交通費
	(50,000)	通信費・交通費ほか
	(150,000)	懇親会費

（3）委員会構成

2007 年度は、新たに副委員長を設置して下記の構成で委員会活動を行う。

委員長	峯岸　邦夫	日本大学
副委員長	内村　太郎	東京大学大学院
委員	熊谷　浩二	八戸工業大学
	桑野　二郎	埼玉大学
	小島　謙一	(財)鉄道総合技術研究所
	古関　潤一	東京大学大学院
	小竹　　望	東洋建設(株)
	西形　達明	関西大学
	中村　　努	苫小牧高等工業専門学校
	間　　昭徳	三菱化学産資(株)
	宮田　喜壽	防衛大学校
	安福　規之	九州大学大学院
	吉田　浩一	前田工繊(株)
顧問	落合　英俊	九州大学大学院
	嘉門　雅史	京都大学大学院

以上

電子情報化委員会 2006 年活動報告

（1）2006 年活動報告内容

1）トップページ改訂：利用者の利便性向上と、ホームページによる広報効果の向上をねらい、トップページのデザイン、各ページのタイトル表示などを改訂した。

2）ニュースの定期更新：各種国際会議や国内シンポジウムの論文募集などのニュースを更新した。

3）データベースの更新：論文集や技術情報誌のデータベース化の作業を昨年に継続して実施した。

4）ICG2006HP の更新：ICG2006 に関するデータ（写真・セッションメモなど）を更新した。

5）IGS 論文集の電子化：昨年度に引続き，第 17、19、20 回の論文集を電子化した。
（これで 9 年分の論文集が電子化済み）

（2）2006 年委員会設営費報告

収入　100,000（2005 年度委員会予算）

支出　 99,735（トップページ作成代 20,000、バイト代 49,000、電子化代 30,735）

合計　+265

電子情報化委員会 2007 年活動計画

（1）2007 年活動予定内容

1）ニュースの定期更新

2）データベースの更新

3）JCIGS 論文集の電子化

4）電子化された論文の公開方式を検討

（2）2007 年設営費計画

収入　160,000（2007 年度委員会予算）

支出　160,000（バイト代 50,000、電子化代 50,000、論文集電子化代 60,000）

合計　　+0

2006年 学生・教育委員会　活動報告

1. 委員会開催日及び内容

第 1 回学生・教育委員会

期日：2006 年 9 月 7 日

会場：パシフィコ横浜

件名：ジオシンセティックス入門セミナーの開催打合せ

第 2 回学生・教育委員会

期日：2006 年 9 月 18 日

会場：パシフィコ横浜

件名：ジオシンセティックス入門セミナー（IGS Training Course）の運営サポート

第 3 回学生・教育委員会

期日：2006 年 11 月 28 日

会場：地盤工学会会議室

件名：次年度の運営方針について

見学会の実施と候補について

2. 行事開催

第 8 回国際ジオシンセティックス会議　IGS Training Course

日時：2006 年 9 月 18 日　9:00～17:00

会場：パシフィコ横浜 501 会議室

プログラム

An introductory training course on geosynthetics is organized by the IGS Education Committee,chaired by Prof.E.Palmeira

Topics and Lecturers:

- Geosynthetics Type and Functions (E.Palmeira)
- Geosynthetics in Drainage and Filtration (J.P.Gourc)
- Geosynthetics in Hydraulic Applications (J.Zornberg)
- Geosynthetics in Reinforced Walls and Steep Slopes (R.Bathurst)
- Geosynthetics in Unpaved Roads (E.C.Shin)
- Geosynthetics in Embankments on Soft Soils (J.Otani)
- Geosynthetics in Waste Disposal (M.Bouazza)

Secretary of training course:S.Kamao and Y.Kitamoto,the IGS Japanese Chapter

3. 2006年収支実績報告

	収　入	支　出	残　額
委員会設営費	100, 000円		
会　議　費		5,000円	
セミナー運営費		10,000円	
計			85,000円

2007年 学生・教育委員会　活動計画

1. 委員会開催

年4回程度

2. 行事予定

(1)　第10回ジオシンセティックス入門セミナー

(2)　見学会

建設現場の進捗状況および研究所等の受け入れ態勢を視野に入れて開催する。

新技術委員会２００７年活動計画　平成19年1月17日

新技術委員会委員長　中村

１）要旨

平成19年度新技術委員会では、ジオシンセティックスに関する新技術の情報収集とデータベース作成を行う。併せて問題点や改善点についても整理する。

ジオシンセティックスに関する新工法、新材料について、環境、維持補修、防災などのキーワードに関連するメーカーのプレゼンテーションと発注者・設計・施工を担当する官庁、大学、協会、ゼネコンなどの講演、意見交換を実施する。

対象はジオシンセティックスに関連する材料、工法の他、軽量材やシンセティックス関連の材料・工法も扱う。　19年度20年度２年間の委員会を通じて新技術の情報収集と実施例を、実務者が活用しやすいように取りまとめる。　また、公共事業削減傾向で外部交流の機会が減っているので、意見交換の場として活用をはかる。

２）委員会メンバー

委員会参加の公募（２月６日総会）

昨年委員会メンバーの今年度参加の意向確認（２月８日新技術委員会）

３）グループ分け

以下の３つの部会を設置する。

①企画部会（委員長　副委員長　幹事　部会長　副部会長　その他若干名）運営

②新技術部会（今泉部会長伊勢副部会長）新技術情報の収集、問題点と改善点の整理

③実例部会（峯岸部会長久保副部会長）実例データベースのまとめ

４）環境関連項目

環境関連項目として現在までに候補になっているテーマ

・処分場キャッピング工におけるジオシンセティックス

・土壌汚染対策工におけるジオシンセティックス

・地下水貯留工におけるジオシンセティックス

５）関連委員会

関連委員会と連絡を取り合って進める。

技術委員会　三木委員長

技術普及委員会　三木委員長　横田副委員長　教育・普及等

災害復旧技術委員会　桑野委員長　宮武副委員長　災害対策工法等

ジオテキスタイル技術委員会　宮田委員長　ＬＣＣ算定法等

６）**設営費計画**　予算20万円

内訳　（講演会費6回6万円　交通費8万円　会議費12回6万円）

以上

新技術委員会２００６年活動報告

委員長	中村和之		
副委員長	伊藤雅夫		
処分場部会長	今泉繁良	副部会長	伊勢智一
軽量土部会長	峯岸邦夫	副部会長	久保哲也
幹事	柴田健一		

Ⅰ．概要

新技術委員会は、ジオシンセティックスに関連する新技術を、委員相互で共有し、研鑽してひろく実務に役立てることを目標として活動している。

各社各団体で開発中の新技術は、開発途上では企業秘密にしているのが一般的で、情報公開しにくい事情が強いので、委員会で公表される新技術は、完成して一般に公開された技術が対象になる。

平成 18 年度は、平成 16 年度から 3 年間の継続テーマの最終年度であり、今回は 3 年間の委員会活動を報告する。

平成 16 年度 4 月に環境問題に関連し、かつ広く業界の利益につながるテーマとして廃棄物処分場と軽量地盤材料の 2 つを取り上げ、新技術委員会内に 2 つの部会、処分場部会（宇都宮大学今泉部会長）と軽量土部会（日本大学峯岸部会長）を設置して、我が国の特徴的な技術を念頭におきながら新材料・新工法を調査した。

また、平成 18 年度には 8ICG 国際会議が 9 月に日本で開催されるという重要な年にあたり、1 人でも多くの参加者を増やすために、材料も工法も可能な範囲で広く対象とし、軽量材にはジオフォームも扱い、IGS 会員以外にも関心のある人には委員会に参加を依頼した。

新技術委員会の活動方針としては、日本の独自性を出すことを念頭におき、キーワードとして、環境、宣伝、業界全体の利益、新しい用途、品質向上、用途の普及などをあげて活動を行った。

委員会の構成メンバーの構成員は、大学、メーカー、ゼネコン、マリコン、コンサルなど広範囲にわたるために、各社が保有する新技術を委員全体が理解するための時間が費やされた。

新技術委員会の成果は、参加各社が 8ICG-Yokohama2006 会議で論文とブース展示で発表した。部会活動の要点は次の通りである。

議事録等は巻末に添付した。

1. 処分場部会

1.1　2004 年度処分場部会

2004.5.21 処分場部会のテーマとして、上記の目的に沿う次の 5 テーマが今泉部会長から提案された。

1) 側斜面の急勾配化技術

2) 不適切処分場の適正化技術

3) 既設処分場の拡張・延命化技術

4) 凍上防止技術の確立

5) 耐震設計法

2004.6.28 処分場部会から委員会のメーンテーマを絞る検討をした結果、2)は、LS 研で既に実

施されていて進行状況にあるので、省く。

5)は重要なテーマであるが長期間が必要になりこの委員会では取組が困難なため省く。

3)の処分場の延命化技術は処分場新規建設の困難な状況等の背景から現状で社会的に必要なテーマであることから採用した。

1)と3)を併せて処分場の延命化を図る方法は、日本の処分場の特色の一つである掘込み型に対し、急勾配化や嵩上げの技術は有効であり、ジオシンセティックス利用の可能性が拡大することが考えられた。

このような背景から、処分場のリニューアルに関する実例や工法を調査した。

2004.8.25 開催の処分場部会ではコンサル、東京都、ゼネコンの処分場関連の方法や施策についてのヒアリング調査報告がされた。

2004.11.4 処分場部会では高密度化工法として、「動圧密工法（海洋工業（株））」、「N&H 強制圧密脱水工法（真空圧密技術協会）」、「リフューズプレス工法（海洋工業（株））」などの説明会と「処分場で使用されるジオシンセティックスの説明」（太陽工業小西委員）がされた。

1.2　2005 年度処分場部会

2005 年度は 2005.2.14 処分場部会で IGS 開催の 8ICG で部会報告テーマについての討議がおこなわれ、日本の処分場におけるジオシンセティックスの活用状況について今泉部会長が中心になってまとめることになった。

2005.2.19 には、加納委員から「処分場リニューアル工法について」NPO 法人 LS 研究協会の発表があった。

2005.3.5 処分場部会ではタキロン（株）松山氏から「処分場で使用されるジオシンセティックスについて」発表された。

2005.4.18 処分場部会では、今泉部会長から「中国の廃棄物処分場最新事情」、加納委員から「処分場リニューアル技術の紹介」が発表された。

1)　2005.6.24 処分場部会では、今泉部会長から「2003 年ジオシンセティックス使用量のアンケート調査」、江崎委員から「保護マットについて」、小竹委員から「海面処分場のしゃ水シート工」の発表された。一般廃棄物処分場の容量アップ及び減量化（延命化）方法として高密度工法、再処理工法、嵩上げ工法、改造工法、移し替え工法

このほか現状の一般報告として 1998 年に公表された 538 の不適切最終処分場のうち 219 施設が現在も北海道と鹿児島で多く、ミニ処分場へも遮水工の設置が義務付けられたことなどが報告された。

2005.10.4 処分場部会では、小竹委員から「港湾基準の改定について」、加納委員から「最終処分場機能検査資格認定試験について」発表された。

2005.10.4 処分場部会では、「大阪国際会議参加報告」（今泉部会長）、「処分場新技術」椿委員、「京都議定書関連」（中村）から発表があった。

1.3　2006 年度処分場部会

2006 年度は、8ICG を成功に導くために、毎回伊藤副委員長から 8ICG の申し込み等について報告をお願いした。

2006.4.6　独立行政法人産業技術総合研究所 LCA センター池田氏 講演 温暖化ガス削減問題

2006.6.29 新技術委員会では、「ビニロンによるコンクリート補強」（伊勢福部会長）、「大口径 PE パイプ」（炭山委員）、「処分場斜面勾配としゃ水シート張力の関係」（今泉部会長）の他、最近の話題として中村から「我が国の切り土斜面崩壊の傾向」「アスベスト一般」の説明があった。

2006.11.27 新技術委員会では、「光ファイバーを用いた計測技術」（大成基礎設計藤川氏）「繊維補強軽量混合土と短繊維を混合した落石対策工法」（久保副部会長）、「砂濾過工法」（柴田幹事）について発表があった。

2.軽量土部会

軽量土部会では、既存軽量材の用途拡大や、ジオテキスタイルと組み合わせることが議論され、

以下の 2 テーマを中心にして活動を進めた。

1) ジャケットに軽量土を混合した土構造物への適用性

2) 発泡廃ガラスと地盤材料を混合した軽量地盤材料とジオグリッドの組合せによる補強盛土工法の検討

材料・工法の紹介としては

1) EPS 工法の最近の動向
2) 壁面緑化
3) 屋上緑化
4) ウオールブロック
5) チップドレーン、タイヤチップ混入固化処理土

などが発表された。

3. その他

その他の話題提供として、

1) 性能設計を取り入れた港湾基準の改訂
2) LS 研と CS 研(ｸﾛｰｽﾞﾄﾞｼｽﾃﾑ処分場開発研究会)
3) 最終処分場機能検査資格認定資格制度①オープン型最終処分場機能検査者　②被覆型最終処分場機能検査者　③浸出水処理施設機能検査者
(詳細は http://www.npo-lsa.jp/member.html)
4) 17 年 9 月大阪国際地盤工学会議の参加報告（今泉氏）
5) 京都議定書関連の話題
6) イタリアで開催された国際会議の参加報告
7) ビニロンによるコンクリート補強
8) 大口径 PE パイプの商品説明
9) 処分場斜面勾配と遮水シート張力の関係」の研究
10) 我が国の切土斜面崩壊の傾向
11) アスベスト一般
12) 自然災害の状況
13) 光ファイバセンシング技術（変位、環境変化の計測）
14) 繊維補強軽量混合土の技術（気泡混合土と短繊維を混合した落石対策工法）
15) 砂ろ過工法の技術紹介（パイプジャケットを用いた砂ろ過による赤土流出対策）

4．設営費報告

費目	金額	合計
予算		200.000
交通費	39.940	
講演料	10.000	
外注費	30.000	
会議費	20.855	
支出合計	100.795	
残額		99.205

5.議事録要旨

2004年度　平成16年度

1	2004年度委員会名簿		
2	2004.4.20　16年度計画		
3	2004.5.21 議事録	部会の研究項目について	
4	2004.6.28 議事録	廃棄物処分場部会	テーマ絞り込み
5	2004.7.1　議事録	軽量土部会	テーマ絞り込み
6	2004.8.25 議事録	廃棄物処分場部会	テーマ調査
7	2004.7.1　議事録	軽量土部会	ジオフォームの取り扱い
8	2004.10.27 議事録	軽量土部会	材料工法紹介
9	2004.11.4 議事録	廃棄物処分場部会	材料工法紹介
10	2004.11.29 委員会名簿		

2005年度　平成17年度

11	2005.2.14 議事録	処分場部会	8ICG発表内容協議
12	2005.2.14 議事録	軽量土部会	EPS及びウレタン
13	2005.2.19 議事録	処分場部会	処分場リニューアル工法
14	2005.3.5　議事録	処分場部会	使用されるｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ
15	2005.4.18　議事録	処分場部会	中国処分場事情 リニューアル工法
16	2005.6.24　議事録	処分場部会	保護マット 海面処分場
17	2005.10.4　議事録	処分場部会	港湾基準改定 処分場資格試験
18	2005.10.4　議事録	軽量土部会	タイヤチップ混入固化処理土
19	2005.11.30 議事録	合同会議	大阪国際地盤工学会議参加報告 処分場新工法 京都議定書関連
20	2005.12　報告	新技術委員会2005年活動報告	

2006年度　平成18年度

21	2006.1　報告	新技術委員会2006年活動計画		
22	2006.4.5　議事録	新技術委員会幹事会		年間計画討議
23	2006.4.9　8ICG論文	処分場部会	①日本における処分場の進展	
		軽量土部会	②ジャケット＋軽量材	
			③発泡廃ガラスとジオグリッドの摩擦特性	
			④ウレタン工法における中越地震の影響	
24	2006.6.29 議事録	合同会議		工法紹介
25	2006.7　報告	JC-IGS技術情報		
26	2006.11.27 議事録	合同会議		工法紹介 光ファイバーセンシング

5．新技術委員会名簿　2006.12 現在

委員長		中村和之	㈱ジオデザイン
副委員長		伊藤雅夫	前田工繊㈱
幹事		柴田健一	芦森工業㈱

処分場部会

部会長	処分場	今泉繁良	宇都宮大学
副部会長	処分場	伊勢智一	(株)クラレ
委員	処分場	石川雅洋	東洋紡績(株)
委員	処分場	加納 光	ネオ・ルーフィング(株)
委員	処分場	江崎孝二	ユニチカ(株)
委員	処分場	清川伸夫	東京インキ㈱
委員	処分場	志々目正高	(株)ボルクレイ・ジャパン
委員	処分場	永野　豊	芦森工業㈱
委員	処分場	松山真三	タキロン㈱
委員	処分場	水田邦憲	三星産業㈱
委員	処分場	新井　斎	ＥＬＬシステム研究会
委員	処分場	小西裕次	太陽工業㈱
委員	処分場	菅埜　幸治	東レ(株)
委員	処分場	角田　起	前田工繊㈱
委員	処分場	小竹　望	東洋建設(株)
委員	処分場	熊谷浩二	八戸工業大学
委員	処分場	椿　雅俊	東急建設株式会社
委員	処分場	下村　徹	三ツ星ベルト㈱
委員	処分場	炭山宜英	大日本プラスチックス㈱
委員	処分場	山田知正	㈱ユウホウ
委員	処分場	平井貴雄	三井化学産資㈱

軽量土部会

部会長	軽量土	峯岸邦夫	日本大学
副部会長	軽量土	久保哲也	前田工繊㈱
委員	軽量土	天辻吏慶	ダウ化工㈱
委員	軽量土	榎本晃司	イノアック特材(株)
委員	軽量土	窪田達郎	EPS開発機構
委員	軽量土	鳥海信弘	繊維土木
委員	軽量土	三澤清志	岡三リビック(株)
委員	軽量土	宮崎武知	麻生ﾌｫｰﾑｸﾘｰﾄ(株)
委員	軽量土	本名　浩	帝人ファイバー㈱
委員	軽量土	大川栄二	アキレス株式会社

委員	軽量土	矢島寿一	明星大学
委員	軽量土	村上　哲	茨城大学
委員	軽量土	御手洗　義夫	東亜建設工業㈱
委員	軽量土	花岡浩一	麻生ﾌｫｰﾑｸﾘｰﾄ(株)
委員	軽量土	吉川進	三菱化学産資
講師		池田　正基	産業技術総合研究所
委員		藤川富夫	大成基礎設計㈱

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅳステージ）2006年活動報告

（1）ジオメンブレン技術委員会2006年活動報告

ジオメンブレン技術委員会第Ⅳステージ（2004年1月～2007年12月）では、ジオメンブレン（あるいは他のジオシンセティックス）を用いた廃棄物最終処分場の埋立地や各種の貯水施設などの遮水工・遮水構造の長期性能についての評価手法の提案のため、現場での調査計測や既存実験データの取りまとめなどを行い、以下の項目について検討を進めている。

1) 性能を評価する適切な試験および性能評価
2) 遮水構造の信頼性と長期信頼性向上のための新しい提案
3) 遮水構造（保護材料などを含む）におけるジオメンブレンの耐久性の位置づけ

また、今後の廃棄物最終処分場におけるジオメンブレン（あるいは他のジオシンセティックス）の普及と活用をめざし、以下の項目についても検討を進めている。

1) 廃棄物最終処分場でのジオシンセティックスの適用とその効果
2) 新しい技術情報（モニタリングと管理方法、キャッピングなど）

2006年は、5回の全体委員会を実施した。各委員会の議事は下記の通りであり、主に耐久性評価（試験）マニュアルの作成に向けたデータ収集や現地調査の方法について議論を行った。

第8回委員会　平成18年1月10日（火）、14:00-17:00

1) 2005年活動報告・2006年活動計画について
2) 耐久性評価（試験）マニュアルの作成とWGについて
3) 現地調査および試料の評価の中間報告
4) 今後の候補地について

第9回委員会　平成18年3月28日（火）、14:00-16:30

1) 2005年活動報告・2006年活動計画について
2) 日本遮水工協会への協力依頼について
3) 耐久性評価マニュアル（仮称）の作成について
4) 現地調査および試料の評価の中間報告
5) 今後の候補地について
6) 話題提供
   - 「Geo-Environmental Engineering 2006」について

第10回委員会　平成18年7月7日（金）、14:00-17:00

1) 耐久性評価マニュアル（仮称）の作成について
2) 現地調査および試料の評価の中間報告
3) 今後の候補地について

第 11 回委員会　平成 18 年 10 月 3 日（火）、14:00-17:00

1) 耐久性評価マニュアル（仮称）の進捗状況について
2) 現地サンプリング調査について
   - 試料評価の中間報告
   - サンプリング協力機関への報告について
   - 今後の候補地について
3) 話題提供
   - 「第 8 回国際ジオシンセティックス会議」について

第 12 回委員会　平成 18 年 12 月 19 日（水）、14:00-17:00

1) 耐久性評価マニュアル（仮称）の進捗状況について
   - 各章の執筆状況
   - スケジュール
2) 現地サンプリング調査について
   - 一関一般廃棄物処分場のサンプリング調査
   - 今後の候補地について

（2）2006 年委員会設営費報告

2006 年 委員会設営費報告（自 2006 年 1 月 1 日 ～至 2006 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	決 算	備　　考
1. 委員交通費	¥195,000-	¥181,860-	第 8 回委員会　¥ 39,880（2 名旅費） 第 9 回委員会　¥ 67,400（1 名旅費） 第 10 回委員会　¥ 42,280（2 名旅費） 第 11 回委員会　¥ 32,300（1 名旅費）
2. 通信・消耗品費	¥5,000-	¥5,386-	第 10 回委員会　¥ 1,816（お茶代） 第 11 回委員会　¥ 1,680（お茶代） 第 12 回委員会　¥ 1,890（お茶代）
合計	¥200,000-	¥187,246-	

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅳステージ）2007年活動計画

（1）2007年活動計画

昨年度に引き続き、遮水工・遮水構造の長期性能についての評価手法の提案のため、現場での調査計測や既存の実験データの取りまとめなどを行い、下記の項目について検討を進めることにより、耐久性評価（試験）マニュアルの作成を行う。

1) 性能を評価する適切な試験の方法および性能評価
2) 遮水構造の信頼性と長期信頼性向上のための新しい提案
3) 遮水構造（保護材料などを含む）におけるジオメンブレンの耐久性の位置づけ

2007年は、4回の全体委員会を予定している。

2007年	3月	第13回委員会	（話題提供，耐久性評価マニュアル1次案の作成，他）
	6月	第14回委員会	（話題提供，耐久性評価マニュアル2次案の作成，他）
	9月	第15回委員会	（話題提供，耐久性評価マニュアルの完成，他）
	12月	第16回委員会	（話題提供，委員会の取りまとめ，他）

委員会組織

委員長：　島岡　隆行　（九州大学大学院工学研究院　付属環境システム科学研究センター）
副委員長：　熊谷　浩二　（八戸工業大学環境建設工学科）
　　勝見　武　（京都大学大学院地球環境学堂地球親和技術学廊）
委員：　27名（2007.1.9現在）

（2）2007年設営費計画

2007年度 委員会予算（自2007年1月1日 ～至2007年12月31日）

科　目	予 算	備　　考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥45,000（1回）×4回=¥180,000-
2.通信・消耗品費	¥20,000-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200,000-	

ジオテキスタイル技術委員会 2006 年活動報告

（1）2005 年活動報告内容

ジオテキスタイル技術委員会は，ジオテキスタイルに関する技術的な課題について検討を行うために，8 年前に設置された常設の委員会である。平成 10～12 年度の第 1 ステージでは，補強土工法，排水工法，試験法に関する現状把握と課題の抽出を行った。平成 13～15 年度の第 2 ステージでは，第 1 ステージで補強土工法を対象に実施した「限界状態設計法の導入に関する課題」の整理結果をもとに，個別の課題の具体的な検討を行った。

以上の背景のもとで、第 2 ステージで検討した限界状態設計法における活用を視野に入れながら、ジオテキスタイルの標準的な試験方法に関して検討を行うことを目的として平成 16 年度より 3 ヵ年間にわたり第 3 ステージの活動を実施した。

委員長　　：東京大学生産技術研究所　　古関　潤一
副委員長　：鉄道総合技術研究所　　矢口　直幸

最終年度の 3 年目である今年度は 1 月 6 日、7 月 24 日と 12 月 19 日に全体会議を開催し、試験法と設計法の 2 つの WG に分かれて以下の項目について分担して検討した成果を報告書原稿としてとりまとめた。

1. 限界状態設計で必要とされる各種特性値の測定方法の整理
2. 海外関連基準・ISO 等の動向調査
3. 多様な材料を対象とした既存試験結果の開示と分析
4. 同一材料を対象とした多機関による一斉試験の実施

（2）2006 年委員会設営費報告

収入：200,000 円（委員会活動費）+17 円（利息）
支出：137,520 円（交通費）+25,880 円（会議費）+5,455 円（消耗品および振込み手数料）
　　+31,162 円（返納）
交通費の内訳：室蘭-東京　1 回（小計 59,000 円）
　　長野-東京　5 回（小計 74,520 円）
　　東京近郊交通費補助　4 回（小計 4,000 円）

ジオテキスタイル技術委員会 2007 年活動計画

（1）2007 年活動予定内容

＜第 3 ステージ（現委員会）の活動計画＞

今年度の前期（1 月～3 月）は、報告書原稿の査読，校正，CD-ROM 出版を実施する。

＜第 4 ステージ（次期委員会）の体制(案)＞

委員長　：防衛大学校　宮田喜壽
委員　　：公募
テーマ名：ジオグリッド補強土壁の LCC に関する研究
活動期間：3 年間（予定）

＜第４ステージ（次期委員会）の設立趣意（案）＞

１．目的

維持管理の時代を見据え，LCC（ライフサイクルコスト）を考慮した社会資本整備が各方面で検討されている．ジオグリッド補強土壁においては，これまで初期コストの有利面ばかりが重視されてきたが，高規格の補強材，壁面形式，そしてジオテキスタイル排水材などの併用などで災害に強いことや，長期的に高い安定性を確保できるという利点が注目されるようになってきた．このような性能は，従来の安全率を用いた性能評価法で評価することが難しいが，LCC で評価すれば，他の構造形式の擁壁より合理的な技術であることを示すことができると考えられる．本委員会では，ジオグリッド補強土壁の LCC の算定法の確立を目的とする．

２．活動内容

ジオグリッド補強土壁の LCC の算定法を確立するには，１）建設時，破壊が生じた後の復旧時のコスト算定，２）地震や降雨による破壊確率の計算法，３）ジオグリッドの材料特性の経年変化のモデル化の３つがまず必要になる．本委員会では，上記の３つの課題に対して WG を設け，それぞれのトピックスに関して，文献収集，データの収集，ケーススタディといった検討を行うものとする．

１）の活動は，公開されている工事単価などをもとに行う．非常に簡単な入力作業で単価が計算できるようなソフト化までを WG の活動範囲として検討する．２），３）の活動は，前タームの委員会成果を活用する．これらの課題に対する成果をまとめ，最後に，いくつかのシナリオベースで LCC を実際に計算し，従来 RC 形式での L 型擁壁などの比較を行う．

（２）2006 年設営費計画

収入： 200,000 円（委員会活動費）

支出： 184,000 円（交通費）+16,000 円（会議費）

交通費の内訳：

北海道あるいは九州-東京　２回（小計 120,000 円）

関西あるいは中部-東京　　４回（小計 60,000 円）

東京近郊交通費補助　　４回（小計 4,000 円）

ジオシンセティックス試験法委員会 2006 年活動報告

（1）試験法委員会の活動概要

1) 第 1 回試験法委員会（日時：平成 18 年 6 月 2 日，場所：三井化学産資　7F 会議室）

・国内におけるジオシンセティクス試験法の現状の検討と分析

・ジオシンセティクス材料の性能評価項目

・遮水シートの室内性能評価試験結果と現場での状況のギャップ

・引き抜き試験の問題点

・供試体の形状・材質が試験結果に及ぼす影響と引張試験方法の問題点　　など。

・活動方針の検討した結果，以下のとおりとなった。

① ジオシンセティックス試験方法に関する国内の要望を収集するために、IGS 日本支部会員にアンケート調査の実施を検討する。

② 本委員会委員の専門分野(担当分野)に応じて、ISO,ASTM の試験法の内容をチェックする。（翻訳する価値があるか否か、あるいは翻訳 JIS として提案すべきか否かの検討を行う）

③ ISO/TC221 における ISO 規格案審議の情報収集により、常に規格案の国際動向を念頭に置く。

④ また、平成 18 年度から地盤工学会基準部に新たに設置される室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG との連携が重要になるため、この WG のメンバーとして本委員会の委員を推薦するように働きかける。

2) 活動成果

・ジオシンセティックスに関する試験法における従来の経緯の整理

・欧米の基準の調査と整理

（2）2006 年委員会設営費報告

内　　訳	予算（円）	実績（円）	備　　考
①　委員会経費			
・編集委員会	200,000	200,000	小計
		132,000	第 1 回編集委員会交通費
合　　計	200,000	132,000	残 68,000 円

ジオシンセティックス試験法委員会 2007 年活動計画

（1）活動計画

2006 年度の活動を踏まえ以下の項目について検討する予定であり，年 2 程度の委員会を開催する計画である。

1) 地盤工学会で公示されたが，施行・出版されていない下記のジオシンセティックス基準 4 件について，見直しを行う。なお，作業は，地盤工学会 室内試験規格・基準委員会WG 6 と連携を取りながら行う。

・JGS 0941-1995　土とジオテキスタイルの摩擦特性試験法

・JGS 0931-1996　ジオテキスタイルの垂直方向透水性能試験方法

・JGS 0932-1996　ジオテキスタイルの面内方向通水性能試験方法

・JGS 0911-1996　ジオテキスタイルの見掛けの開孔径試験方法

2) ジオシンセティックス試験方法に関する国内の要望を収集するために、IGS 日本支部会員にアンケート調査を実施する。

（2）2007 年設営費計画

2007 年は，2 回の委員会開催および試験方法を検討するための WG 会議を 2 開催したいことから，以下の予算案としたい。

内　　訳	19 年度予算案（円）	備　　考
①　委員会経費		
・試験法委員会	200,000	委員会交通費
	180,000	熊本あるいは苫小牧－東京（2 回）
・WG 会議	20,000	WG 会議交通費（2 回）
合　　計	200,000	

コーポレートメンバー委員会 2006 年活動報告

（1）2006 年活動報告内容

電子メール委員会：　1）事務局と協調し IGS 選挙の選挙投票の呼びかけ，全コーポレートメンバー投票できた特に電子投票選挙のシステムについて知らせた。
反省点：IGS 本部メンバーリストのメンテナンスの必要性
2）8thICG 横浜での IGC 本部主催の Corporate Reception への参加の呼びかけ
3）IGS 本部リストのメンテナンス作業／12 月：メンテ終了本部へ配信

委員会の開催：8 月 23 日(水)14:00～1600　出席 15 社

【内　容】

1) 8thICG 横浜実行委員会の現状報告と支援のお願い（三木支部長）
8thICG 横浜についての現状の報告と会議参加へのお願いをした。
2) 8thICG 横浜での IGC 本部主催の Corporate Reception への参加／最終の呼びかけ
3) IGS 電子投票選挙で生じた反省点（IGS 本部リストのメンテ作業）をお知らせした。

IGS 本部主催 Corporate Reception：9 月 18 日(月)18:00～21:00 出席 13 社 20 名の参加

【内　容】

IGS 本部の招待で開催された。各支部コーポレートメンバーの学会協力についての御礼を受け，情報交換の場となった。

（2）2006 年委員会設営費報告

委員会設営費　：　収入　50,000 円
支出　　0 円
残金　50,000 円

コーポレートメンバー委員会 2007 年活動計画

（1）2007 年活動予定内容

1) IGS ロゴマークのカタログ等への使用について
ロゴマークの活用について IGS 本部からの了解は得られているが使い方を統一しておく必要がある。ロゴマークの使用についてのマニュアルのたたき台を作成し協議する。
2) その他
副委員長に東京インキ（株）清川伸夫 氏の新任
メールで呼びかけて，メンバーからの意見抽出を行ないメンバーの意見をとりいれる。

（2）2007 年設営費計画

委員会設営費　：　収入　50,000 円
※）会議費等で使用予定

表彰委員会 2006 年活動報告

（1）2006 年活動報告

□IGS 日本支部賞の選考

2006 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞を 11 月 10 日に表彰委員会を開催、選考した。12 月 7 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。受賞者は以下である.

～JC-IGS 論文賞～

★中島　進、渡辺健治

矢板補強を有するジオグリッド補強土擁壁の模型振動台実験

★安福規之、落合英俊、金重正浩、河村　隆

ジオグリッド補強土のダイレタンシー特性を考慮した拘束効果と設計への導入

～JC-IGS 論文奨励賞～

★中山裕文、山王孝尚

熱画像による埋立地遮水シートの熱応力分布推計手法の開発

★野尻峰広、相澤宏幸

水平繰返し載荷を受ける擁壁の残留変位のジオテキスタイル盛土補強による抑制

～JC-IGS 技術賞～

谷口善則、森島啓行

新潟県中越地震による鉄道盛土の被害とその復旧方法について

ジオシンセティックス技術情報，Vol.21　No.1　2005 年 3 月掲載

～JC-IGS 技術奨励賞～

毛木博彰、山本英明、上野　豊、松本七保子

河川修景護岸工法

ジオシンセティックス技術情報，Vol.21　No.3　2005 年 11 月掲載

②IGS 学生賞（The IGS student awards)の日本支部としての以下選出

東京大学大学院　社会基盤学専攻　中島　進

（2）2006 年委員会設営費報告

収入　¥150,000（2006 年度委員会予算）

支出　¥82,681（賞状、盾代、筒代、その他備品）

合計　+¥67,319

表彰委員会 2007 年活動計画

（1）2007 年活動予定内容

2007 年度 IGS 日本支部賞の審査および選考

その他

（2）2007 年設営費計画

2007 年設営費計画を必ずいれて下さい。様式は自由です。

収入　¥150,000（2007 年度委員会予算）

支出　¥150,000（賞状、盾代、筒代、その他備品）

合計　　±¥0

別紙 1

IGS日本支部 2006年度一般会計予算(案)

期間:平成18年1月1日～平成18年12月31日

一般会計(収入の部):

科　目	H18予算(案)	実績(H18.12.31)	備　考
1. 会費等収入			
①平成18年度分　法人会員	5,760,000	6,240,000	26社×240,000円/社
個人会員	2,160,000	1,720,000	215名×8,000円/人
学生会員	60,000	14,000	14名×1,000円/人
②本部還付金　法人会員分	288,000	130,790	22社(H17実績)×50＄/社×118.90円/＄
(小計)	8,268,000	8,104,790	※17万減:概ね予定通り
2. 講習会・出版等収入			
シンポジウム	800,000	672,500	参加費＋懇親会収入
入門セミナー, 見学会他	50,000	0	
書籍, ビデオ等販売	200,000	34,000	論文集のバックナンバー等売上げ
書籍印税	200,000	0	
(小計)	1,250,000	706,500	※計画に対して54万円の減
3. 受託収入			
受託研究	2,000,000	1,995,000	
(小計)	2,000,000	1,995,000	※概ね予定通り
4. 広告等収入			
技術情報誌広告	600,000	544,000	05年11月号、06年3月号、06年7月号
(小計)	600,000	544,000	
5. 受取り利息等			
受取り利息	100	108	
(小計)	100	108	※予定通り
(H18年度　収入合計)	12,118,100	11,350,398	●計画に対し、74万円の収入減
6. 繰越し金			
一般会計繰越し金	3,373,522	3,373,522	一般会計
特別会計繰越し金	21,476,017	13,666,163	
特別会計繰入れ金全返納	0	18,000,000	内訳)H13～H18:350+250+200+200+400+400
(小計)	24,849,539	35,039,685	
(収入・繰越金　総合計)	**36,967,639**	**46,390,083**	

2007年1月
財務委員会

一般会計(支出の部):

別紙 2

科　目	H18予算(案)	実績(12/31)	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			**担当:事務局**
法人会員	2,880,000	2,853,600	24社×1000＄/社×118.90円/＄
個人会員	972,000	998,760	280名×30＄/名×118.90円/＄
学生会員	0	0	60名×0円/名
2005年度途中追加新個人会員分追徴費		42,804	12名×30＄/名×118.90円/＄
2005年度途中追加新特別会員分追徴費		59,450	2社×250＄/社×118.90円/＄(還付金差額繰り入れ)
(小計)	3,852,000	3,954,614	※概ね予定通り(10万円支出増)
2. 講習会・出版等支出			
シンポジウム	800,000	602,586	**担当:行事委員会**
入門セミナー, 外国人講演会、見学会他	200,000	0	**担当:学生教育委員会**
用語集出版費	200,000	0	**担当:編集委員会(繰り越し)**
税金、原稿料等	200,000	0	**税金,原稿料,ｱﾙﾊﾞｲﾄ代**
(小計)	1,400,000	602,586	※80万円の支出減(節約)
3. 受託業務支出			**担当:ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ, ｼﾞｵﾒﾝﾌﾞﾚﾝ技術委員会**
受託報告書作成費	400,000	0	原稿料20万円未払い(ジオテキ技術委員会)
報告書作成, 補助作業費	800,000	612,600	アルバイト代, 印刷製本費
(小計)	1,200,000	612,600	※59万円の支出減(実質節約:39万円=59-20)
4. 技術情報発行費			**担当:編集委員会, (名簿:事務局)**
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	1,353,869	140万(情報誌)＋15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	500,000	0	アルバイト代、原稿料
発送, 連絡費	350,000	332,340	
(小計)	2,400,000	1,686,209	※71万円の支出減(節約)
5. 委員会経費			**担当:各委員長**
国際連絡委員会	550,000	151,550	予算:委員会費5万+本部理事会派遣費50万
コーポレート委員会	50,000	0	
編集委員会	200,000	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	11,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	82,681	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	50,000	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	168,838	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	187,246	
新技術委員会	200,000	100,795	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	132,000	新規委員会
学生教育委員会	100,000	15,000	見学会, 入門セミナー別
電子情報委員会	100,000	99,735	
財務委員会	50,000	0	
ｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ使用量ｱﾝｹｰﾄ調査	50,000	11,340	別刷り印刷費,通信費等
(小計)	2,200,000	1,160,185	※105万円の支出減(節約)
6. 事務局経費,その他			**担当:事務局**
総会, 懇親会費	100,000	37,699	H18年の総会費用
地盤工学会謝礼	300,000	300,000	地盤工学会謝礼+会議室使用費
埼玉大寄付金	0	500,000	※事務局移転に伴う場所代、事務用品・コピー機使用等
通信費	150,000	130,958	
消耗品費	200,000	142,512	封筒印刷代含む
傭人費	600,000	343,200	事務局傭人費11月、12月支給分
幹事会	100,000	81,560	会議費, 幹事交通費、通信費資料購入など
その他	100,000	120,875	事務局交通費, 慶弔費等、送金費、謝金等
(小計)	1,550,000	1,656,804	※11万円増　(ただし、寄付除くと39万円の節約)
(H18年度　支出合計)	12,602,000	9,672,998	●計画より、291万円の経費節減
7. 予備費・繰入れ費			
2007年特別会計繰入れ費	21,476,017	13,666,163	一般会計繰入返却後の特別会計の残額
一般会計予備費	2,889,622	23,050,922	H18年末収入・繰入実績-H18年末支出実績-H19特別会計繰越
(H18予備費・繰入れ費　合計)	24,365,639	36,717,085	
(支出合計)	**36,967,639**	**46,390,083**	

2007年1月
財務委員会

別紙 3

IGS日本支部 2006年度予算書案(特別会計)

期間:平成18年1月1日～平成18年12月31日

特別会計(収入の部):

(2006年国際会議)

科　目	H18予算	実績(1/1現在)	備　考
前年度繰越し金	17,476,017	17,476,017	17年度特別会計繰越金(H13～H17:一般会計繰入+収入-支出)
2006年度繰入れ金	4,000,000	4,000,000	一般会計からの繰入れ金(H18年度分)
展示出展料	16,515,500	16,772,875	(全体-H17年度徴収分)
参加登録費	70,000,000	52,166,000	この欄は、1/12現在(登録外注先ICSからの口座引き上げ時点)
登録料返金未返金分		36,000	登録後、ｷｬﾝｾﾙ者への未返還金(連絡不能:本来は、預かり金)
その他収入	19,200,000	15,442,290	論文集販売, バンケット, 助成金等
普通預金利息		5,388	
カード手数料・外国送金手数料(登録)		-1,117,533	1/12(外注先ICSの口座引き上げ時の諸手数料差引き額)
IGS Fee	-9,850,000	-8,097,800	展示・参加登録費合計の10%(IGS本部への上納金)
(収入合計)	117,341,517	96,683,237	

記事)一般会計からの繰入れ総額(1800万円)

内訳(H13:350万円, H14:250万円, H15:200万円, H16:200万円, H17:400万円, H18:400万円)

特別会計(支出の部):

科　目	H17予算	実績(1/1現在)	備　考
1. 部会費			
総務部会	100,000	0	部会費
行事部会	480,000	0	部会費
学術部会	100,000	59,453	部会費(内訳:部会会議費, 論文原稿入稿時の送料)
広報部会	100,000	67,303	部会費(内訳:部会会議費, 会議協力依頼状送料)
財務部会	24,000	0	部会費
(小計)	804,000	126,756	
2. 総務部会関係経費			担当:総務部会
実行委員会交通費	449,000	123,990	
登録受付外注費	8,262,975	0	2007年度に繰越
Bulletin No.2, No.3/Flyer作成費	1,587,600	2,698,500	
ホームページ運営管理費	1,039,500	577,500	
(小計)	11,339,075	3,399,990	
3. 学術部会関係経費			担当:学術部会
IPSC会議費	1,270,500	735,533	
論文投稿　処理外注費	3,205,125	0	2007年度に繰越
プロシーディングス作成費	4,651,500	4,599,660	
(小計)	9,127,125	5,335,193	
4. 行事・スポンサー広告関係経費			担当:行事部会
ｺﾝｸﾞﾚｽﾊﾞｯｸﾞ・Tｼｬﾂ・ｻｯｶｰﾕﾆﾌｫｰﾑ作成費		1,613,387	
(小計)	0	1,613,387	
5. 事務局経費			担当:事務局
事務局経費	483,000	439,284	消耗品, 事務局交通費等
通信費	861,000	1,115,407	通信費、封筒、ラベル等
事務機器	420,000	0	パソコン、プリンター他
傭人費	5,984,400	700,000	事務局傭人費、アルバイト
(小計)	7,748,400	2,254,691	
6. 会議運営費、事後会議費			
会議当日運営費	62,509,289	52,287,057	会場2714,ﾊﾞﾝｹｯﾄ飲食1208,ｲﾍﾞﾝﾄ180,通訳ﾊﾟﾝﾌ208,来賓92,他
(小計)	62,509,289	52,287,057	
H18年度支出　合計	91,527,889	65,017,074	
7. 戻入・予備費			
一般会計への戻入額	18,000,000	18,000,000	H18までの一般会計からの繰入額総額の返済
予備費	7,813,628	13,666,163	現在1/12の特別会計残額
(小計)	25,813,628	31,666,163	
(支出・予備費　総合計)	117,341,517	96,683,237	

2007年1月

2006年実行委員会, 財務部会

別紙4

IGS日本支部　2007年度会計予算(案)

期間:2007年1月1日～2007年12月31日

収入の部

科　目	2007年予算(案)	備　考
1. 会費等収入		
①2007年度分　法人会員	6,000,000	25社×240,000円/社
個人会員	2,240,000	280名×8,000円/人
学生会員	30,000	30名×1,000円/人
②本部還付金　法人会員分	156,000	26社×50＄/社×120円/＄
(小計)	8,426,000	
2. 講習会・出版等収入		
シンポジウム	800,000	参加費＋懇親会収入
講習会，見学会他	50,000	参加費
書籍，ビデオ等販売	100,000	
書籍印税	100,000	「ごみ埋立地の設計施工ハンドブック」「入門書」
(小計)	1,050,000	
3. 広告等収入		
技術情報誌広告	600,000	2006年11月号、2007年3月号・7月号
(小計)	600,000	
4. 受取り利息等		
受取り利息	100	
その他	0	
(小計)	100	
(2007年度　収入合計)	10,076,100	
5. 繰越し金		
繰越し金	23,050,922	2006年繰越金
(小計)	23,050,922	
(収入・繰越金　総合計)	**33,127,022**	

2007年1月
財務委員会

支出の部

別紙5

科　目	2007年予算(案)	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	3,000,000	25社×1000＄/社×120円/＄
個人会員	1,008,000	280名×30＄/名×120円/＄
学生会員	0	30名×0円/名
(小計)	4,008,000	
2. 講習会・出版等支出		
シンポジウム	800,000	担当:行事委員会
入門セミナー, 外国人講演会、見学会他	200,000	担当:学生教育委員会
用語集出版費	200,000	担当:編集委員会(繰り越し)
税金、原稿料等	200,000	税金,原稿料,ｱﾙﾊﾞｲﾄ代
(小計)	1,400,000	
3. 受託業務支出		担当:ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ, ｼﾞｵﾒﾝﾌﾞﾚﾝ技術委員会
報告書作成	200,000	2006年原稿料未払い分
(小計)	200,000	
4. 技術情報発行費		担当:編集委員会, (名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	140万(情報誌)＋15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	500,000	アルバイト代、原稿料
発送, 連絡費	350,000	
(小計)	2,400,000	
5. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	800,000	予算:委員会費5万+本部理事会派遣費75万
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	50,000	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	
新技術委員会	200,000	
ジオシンセティックス試験法委員会	300,000	
学生教育委員会	100,000	見学会, 入門セミナー別
電子情報委員会	160,000	
財務委員会	50,000	
ｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ使用量ｱﾝｹｰﾄ調査	50,000	別刷り印刷費,通信費等
技術普及委員会	200,000	新設委員会
災害復旧技術委員会	200,000	新設委員会
(小計)	3,010,000	
6. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	50,000	
地盤工学会謝礼	300,000	地盤工学会謝礼+会議室使用費
通信費	150,000	
消耗品費	200,000	
傭人費	1,000,000	事務局傭人費
幹事会	100,000	会議費, 幹事交通費、通信費資料購入など
その他	100,000	事務局交通費, 慶弔費等、送金費、謝金
(小計)	1,900,000	
(2007年度　支出合計)	12,918,000	
7. 予備費・繰入れ費		
2007年繰入れ費	20,209,022	2006年繰越 23,050,922円 -(2007年支出合計 12,918,000円-2007年収入合計 10,076,100円)
(支出合計)	33,127,022	

2007年1月
財務委員会

別紙 6

IGS日本支部 2007年度予算書案(特別会計)

特別会計(収入の部):
(2006年国際会議)

科　目	H19予算	実績(1/1現在)	備　考
前年度繰越し金	13,666,163	13,666,163	19年度特別会計繰越金
普通預金利息	0	0	
(収入合計)	13,666,163	13,666,163	

特別会計(支出の部):

科　目	H19予算	実績(1/1現在)	備　考
1. 総務部会関係経費			担当:総務部会
登録受付外注費	4,841,246	0	2007年度に繰越(外注先ICS未払い分)
(小計)	4,841,246	0	
3. 学術部会関係経費			担当:学術部会
論文投稿 処理外注費	2,765,700	0	2007年度に繰越(外注先ICS未払い分)
(小計)	2,765,700	0	
5. 事務局経費			担当:事務局
事務局経費	100,000		消耗品, 事務局交通費等
通信費	50,000		通信費、封筒、ラベル等
(小計)	150,000	0	
7. 事後処理費			
総会費	1,000,000		H19総会時、組織委員解散会
監査委託費	1,500,000		帳簿整理費、公認会計士監査委託費
(小計)	2,500,000	0	
H18年度支出 合計	10,256,946	0	
8. 予備費・戻入予定費			
予備費	500,000		
一般会計戻入	2,909,217		監査終了後、一般会計に戻入予定
(小計)	3,409,217	0	
(支出・予備費 総合計)	13,666,163	0	

記事)特別会計は、総会終了後の拡大組織委員会懇親会支出が確定し、監査が終了次第、
速やかに一般会計に戻し入れを行い、終了するものとする(3月中を目処に終了)。

2007年1月
2006年実行委員会, 財務部会

監 査 報 告 書

国際ジオシンセティックス学会日本支部の2006年一般会計及び特別会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成19年2月2日

会計監事 新谷 秀人

署名 新谷秀人 印

会計監事 小田垣 公三

署名 小田垣公三 印

ＩＧＳ日本支部　２００７年度　役員名簿

２００６年１２月

支部長	*三木　博史	（三木地盤環境工学研究所）	技術普及委員会委員長
副支部長	桑野　二郎	（埼玉大学）	災害復旧技術委員会委員長
幹事長	平井　貴雄	（三井化学産資）	ジオシンセティックス試験法委員会副委員長
副幹事長	*宮田　喜壽	（防衛大学校）	ジオテキスタイル技術委員会委員長
副幹事長	#横田　善弘	（前田工繊）	技術普及委員会副委員長
会計･幹事	伊藤　雅夫	（前田工繊）	財務委員会委員長
幹事	*今泉　繁良	（宇都宮大学）	ｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ使用量ｱﾝｹｰﾄ調査委員会委員長
幹事	*内村　太郎	（東京大学）	行事委員会副委員長
幹事	大谷　順	（熊本大学）	IGS 理事、国際連絡委員会委員長
幹事	落合　英俊	（九州大学）	表彰委員会委員長
幹事	#鎌尾　彰司	（日本大学）	学生・教育委員会委員長
幹事	嘉門　雅史	（京都大学）	IGS 理事
幹事	#北本　幸義	（鹿島建設）	新技術委員会副委員長
幹事	*清川　伸夫	（東京インキ）	コーポレートメンバー委員会副委員長
幹事	熊谷　浩二	（八戸工業大）	ジオメンブレン技術委員会副委員長
幹事	#小島　謙一	（鉄道総合技術研究所）	電子情報化委員会委員長
幹事	*古関　潤一	（東京大学）	国際連絡委員会副委員長
幹事	木幡　行宏	（室蘭工業大学）	ｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ技術情報編集委員会委員長, ｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ試験法委員会委員長
幹事	#柴田　健一	（芦森工業）	新技術委員会副委員長
幹事	島岡　隆行	（九州大学）	ジオメンブレン技術委員会委員長
幹事	龍岡　文夫	（東京理科大学）	IGS 会長、前 IGS 日本支部長
幹事	*中村　和之	（ジオデザイン）	新技術委員会委員長
幹事	*桝尾　孝之	（太陽工業）	コーポレートメンバー委員会委員長
幹事	峯岸　邦夫	（日本大学）	行事委員会委員長
幹事	#宮武　裕昭	（土木研究所）	災害復旧委員会副委員長
幹事	*毛利　栄征	（農村工学研究所）	表彰委員会副委員長
監事	#間　昭徳	（三菱化学産資）	
監事	小田垣　公三	（東レ）	
事務局	伊集院紀子	（IGS 日本支部事務局）	

支部顧問	赤木　俊允	（東洋大学名誉教授）
支部顧問	岩崎　高明	（エス・エヌ・テーエンジニア）
支部顧問	田中　茂	（神戸大学名誉教授、（財）建設工学研究所）
支部顧問	福岡　正巳	（マネージメントシステム評価センター）
支部顧問	山内　豊聡	（九州大学名誉教授、山内研究所）

*再任、　#新任、

国際ジオシンセティックス学会　日本支部　(JCIGS)　2007 年組織図

国際ジオシンセティックス学会日本支部規程
Japan Chapter of the International Geosynthetics Society (JCIGS)

1984年9月1日制定
2004年11月9日改正
2007年1月25日改正

1.名称

1.1 国際ジオシンセティックス学会日本支部（以下支部という）と称する。支部の事務局は社団法人地盤工学会内におく。

2.目的

2.1 国際ジオシンセティックス学会（以下学会という）に参加し、ジオシンセティックスに関する情報の収集と交換、技術の向上と発展をはかる。

3.会員

3.1 会員は、個人会員、学生会員と特別会員により構成される。
3.2 個人会員、学生会員と特別会員は自動的に本部の学会員となる。
3.3 個人会員は、原則として地盤工学会の正会員、または特別会員の法人もしくは団体に所属するものとする。
3.4 会員は、学会および支部が刊行する会誌等の配布を受けるとともに、学会または支部の刊行物の入手および事業への参加について特典を有する。

4.会費

4.1 年会費の額は総会によって決定する。
4.2 年会費は国際学会費と支部会費とを合わせたものとし、通貨は日本円とする。
4.3 会計年度は、毎年1月1日より12月31日までとする。
4.4 会員は会費を前年12月末日までに納入する。
4.5 支部顧問については,会費の徴収を行わない。

5.入会、脱退および退会

5.1 会員になろうとするものは、会費を添えて入会申し込み書を学会事務局に提出し、幹事会の承認を受けなければならない。
5.2 会員は学会事務局に書面通知を届けることにより、いつでも脱退できる。
5.3 脱退は、通知に明記された日付または日付明記のない時は会費払込期間の終了時に発効する。
5.4 学会あるいは支部の目的や利害に反して行動する会員はそれを理由として幹事会の多数決により退会させることができる。また、会員は会費の不払いの理由で退会させることができる。
5.5 脱退または退会は、それが行われる年度に対する会費の支払い義務から当該会費を免除しない。

6.役員

6.1 支部には次の役員をおく。

支部長	1名
副支部長	1名
幹事長	1名
副幹事長	2名
会計・幹事	1名
幹事	20名以内
監事	2名

6.2 役員の選出
6.2.1 支部長は別に定める選挙規定により全会員の投票によって選出する。
6.2.2 支部長を除く他の役員は、支部長が推薦し、通常総会で承認を得る。
幹事については公募で応募することができる。その場合は、幹事会で推薦し総会で承認を得る。
6.2.3 役員の任期は、原則として就任した通常総会から次々期の通常総会までの2年間とする。但し、再任を妨げない。
6.2.4 補欠による役員は支部長が任命しその任期は前任者の残任期間とする。
6.3 役員の任務
6.3.1 支部長は支部を総括し、この支部を代表する。
6.3.2 副支部長は、支部長を補佐し、支部長が職務に支障を生じたときには、その職務を代行する。
6.3.3 幹事長は幹事会を総括し、支部長、副支部長が職務に支障を生じたときには、その職務を代行する。
6.3.4 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長が職務に支障を生じたときには、その職務を代行する。
6.3.5 役員全員で幹事会を組織し、支部の運営にあたる。また、この規定に定める事項以外の事項を決議することができる。
6.3.6 監事は、支部の会計を監査する。
6.4 支部に役員のほか、支部顧問をおくことができる。支部顧問は幹事会で推薦し、通常総会で承認を得る。

7.総会

7.1 総会の開催
7.1.1 通常総会は、各年一回定期的に開催する。開催時期は会計年度末日（12月31日）より2ヶ月以内とする。
7.1.2 臨時総会は、特別の案件を処理するため、支部長または幹事会が必要と認めたときに開催する。支部長または幹事会は通常または臨時総会につき、少なくとも1ヶ月前までに会員に事前通知を行わなければならない。
7.2 総会の機能
7.2.1 総会の議長は、支部長または幹事会で選出された幹事があたる。
7.2.2 次の事項は、通常総会に報告してその承認を受けなければならない。
1 事業報告および収支決算に関する事項
2.事業計画および収支予算に関する事項
3.その他、幹事会において必要と認めた事項
7.2.3 通常総会は前項1～3の他、次の事項を決議する。
1.役員の承認
2.規定の変更
7.2.4 総会は、会員数の2分の1以上の出席がなければ議決することができない。ただし、書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす。
7.2.5 議決権は、個人会員1票、特別会員は5票とする。
7.2.6 総会の議事は、規定の変更を除き出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
7.2.7 規定変更の決議は、通常総会において出席者の4分の3以上をもって決する。

8.委員会活動

8.1 学会および支部の活動を推進するため、委員会を設けることができる。
8.2 委員会の任務は幹事会で決める。
8.3 委員会の成果は会員に報告する。
8.4 国際連絡委員会を常設し、国際ジオシンセティックス学会との連絡にあたる。
8.5(社)地盤工学会ジオシンセティックス工学委員会との連絡は幹事会が行う。

付則.1　本規定は平成16年通常総会以降実施する。
付則.2　年会費は次の通りとする。
1.個人会員　8,000円
2.特別会員　240,000円
3.学生会員　1,000円
付則.3　ＩＧＳ本部の規定の変更があった場合、かつ当支部の規定にない項目については、幹事会の決議によって運用することができる。

上記は内容に相違ないことをここに証明する

所在地　東京都文京区千石四丁目38番2号
（社）地盤工学会内

名　称　国際ジオシンセティックス学会　日本支部

代表者　支部長　三　木　博　史